# M2BPGi を用いたメタボリックシンドローム因子との肝線維化評価の検討

◎平田 彩[1)]、寺﨑 裕子[1)]、松田 紗知[1)]、池上 珠美[1)]、中島 久恵[1)]、永沢 善三[2)]
医療法人社団 高邦会 高木病院[1)]、国際医療福祉大学 福岡保健医療学部[2)]

【目的】近年問題となっている非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の予後因子として肝線維化進展が最も重要である。非侵襲的に肝線維化を評価する方法として、糖鎖バイオマーカー M2BPGi が有用視されている。今回、非飲酒者におけるメタボリックシンドローム因子が及ぼす肝線維化の評価検討を行った。

【対象と方法】2020 年 9 月～2021 年 8 月までの人間ドック受診者のうち非飲酒者（HBV/HCV を除く）563 名を対象とした。検討因子は BMI ・腹囲・空腹時血糖（BS）・ HbA1c ・中性脂肪（TG）・血小板（PLT）・ Fib-4 index（Fib-4）とし、M2BPGi 陽性群において腹部超音波検査（B-mode）を用いて肝脂肪化の程度を検討した。脂肪肝の判定は日本超音波医学会「脂肪肝の超音波診断基準」より半定量的所見を用いて軽度、中等度、高度に分類を行った。

【結果と考察】BMI、TG において有意な結果が得られ、肥満や脂質異常症など、生活習慣病が線維化進展リスク因子として示唆された。また、M2BPGi 陽性 74 名のうち、54 名（73%）が超音波検査にて脂肪肝所見を認めた。そのうち、線維化進展リスクが高いと示唆された BMI や TG の高値群では中等度、高度の脂肪肝の割合が多い結果であった。脂質異常症を伴う脂肪肝は線維化進展の評価が極めて重要だと考える。

【結語】単純性脂肪肝・ NAFLD ・非アルコール性脂肪性肝炎は病態が進行するまで自覚症状が現れないため肝線維化進展の重要性を認識し、肥満や脂質異常症がある場合には、M2BPGi の測定を勧め、肝線維化進展例を早期に拾い上げることが重要と考える。超音波検査による脂肪化定量評価が臨床応用されており、今後は脂肪化定量評価とエラストグラフィにて非侵襲的線維化進展評価を行い、適切なスクリーニング・診断を行う必要がある。

連絡先 0944-87-9490
yobou-kensa@kouhoukai.org